

平成12年度 帯広市

文化賞

文化奨励賞

帯広市教育委員会

帯広市文化賞受賞者紹介



み や け た ろ う
三 宅 太 郎
(84歳)

《受賞理由》

氏は、戦後の十勝歌壇の中心に在って、常に短歌界の発展に努めてこられました。歌誌「山脈」の同人として歌人の道を歩み始め「鴉族」「樹樹」の同人・編集委員として今も積極的に活動を展開しておられます。

昭和18年に帯広大谷高等学校の教諭となられ、以後、帯広柏葉高等学校など多くの高校に勤められました。昭和52年に足寄高等学校を退職してからは、地域の後進の指導に努められました。

帯広婦人会短歌部の講師、帯広市市民文芸編集委員、十勝毎日新聞短歌・小説選者などをはじめ多くの歌会や講座の講師を勤めてこられました。

また、氏は、短歌のみならず広く文芸全般にわたって活動してこられました。特に、万葉集・源氏物語などに造詣が深いことから、文化講座の講師も勤めておられます。

このような氏の長年にわたる活動は、地域文化の向上発展に大きく寄与するものであることから、帯広市文化賞を贈り顕彰するにふさわしいものであります。

《略 歴》

- 大正8年 新潟県新発田市に生まれる
- 昭和24年 道立帯広柏葉高等学校に着任
- 昭和26年 歌誌「山脈」同人となる
- 昭和52年 道立足寄高等学校校長退職
- 昭和61年 帯広市民文芸賞（小説）受賞
- 平成10年 中城ふみ子会会長となる
- 平成12年 十勝文化会議十勝文化賞受賞

帯広市文化奨励賞受賞者



さ やま ゆ き え
佐 山 由 紀 江
(59歳)

《受賞理由》

氏は、昭和48年より陶芸を始め、昭和57年の帯広百年記念館陶芸研究会受講を契機に、本格的に陶芸に取り組みられました。その後は、全道展、平原社展などで活躍してこられました。平成4年には、平原社会員となり、平成9年からは全道展の会員となりました。

昭和62年に全道展に初入選を果たして以来、日本現代工芸美術展などに連続入選を果たしておられます。また、平成7年と11年には日展に入賞するなど、今後ますますの活躍が期待されます。

このような氏の長年にわたる活動は、地域文化の向上発展に寄与するとともに、今後の活動も大きく期待できるものであるため、帯広市文化奨励賞を贈り顕彰するにふさわしいものであります。

《略 歴》

- 昭和16年 女満別町に生まれる
- 昭和35年 北見藤女子高等学校卒業
- 昭和48年 帯広市陶芸講座受講
- 昭和57年 帯広百年記念館陶芸研究会受講
- 昭和62年 全道展に入選
- 平成2年 日本現代工芸美術展に入選
- 平成4年 平原社美術協会会員となる
- 平成7年 日展に入選
- 平成10年 日本現代工芸美術家協会会員となり、現在に至る

帯広市文化奨励賞受賞者



ヴォワ・デ・フルール

昭和56年3月設立（20年）

《受賞理由》

昭和56年に本格的な女声合唱団として発足しました。

以来、合唱祭をはじめ、コンクール、演奏会のほか地域の記念事業などに積極的に参加してこられました。特に、平成3年から毎年、北海道合唱コンクールに出場し、連続金賞を受賞しており、その合唱のレベルは非常に高く評価されております。

また、北海道の代表として過去に3度の全国大会出場を果たしており、その音楽的技能、感性は、全国的にも高い評価を得ております。

一方、帯広市開基110年記念演奏会、市民オペラ「カルメン」など、地域の事業に積極的に参加し、輝きのある歌声と透明なハーモニーで好評を博しています。因みに、「ヴォワ・デ・フルール」とは、フランス語で「花々の声」という意味です。

このような会の長年にわたる活動は、地域文化の向上発展に寄与するとともに、今後の活動も大きく期待できるものであるため、帯広市文化奨励賞贈り顕彰するにふさわしいものであります。

《略 歴》

- | | |
|-------|----------------------------|
| 昭和56年 | ヴォワ・デ・フルール発足 |
| 同 年 | 合唱祭、第32回北海道合唱コンクールに出場 |
| 平成3年 | 第42回北海道合唱コンクール金賞受賞（以降連続受賞） |
| 平成5年 | 第46回全日本合唱コンクール全国大会初出場、銀賞受賞 |
| 平成7年 | 第48回全日本合唱コンクール全国大会銅賞受賞 |
| 平成11年 | 第52回全日本合唱コンクール全国大会銅賞受賞 |